

1. 安全のために必ず守ること

- ・ご使用前に、この「安全のために必ず守ること」をよくお読みのうえ正しくお使いください。
- ・ここに示した注意事項は、安全に関する重大内容を記載していますので、必ず守ってください。

△警告	誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷等の重大な結果に結び付く可能性が大きいもの。
△注意	誤った取扱いをしたときに、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。

本文中に使われる“図記号”の意味は次の通りです。

⊙	絶対に行わないでください。
⚠	必ず指示に従い、行ってください。
⚡	必ずアース工事を行ってください。
🔌	電源は必ず切ってから行ってください。
🖐	触れたり、指や棒を入れないでください。

・お読みになった後は、説明書とともに、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

△警告

Ⓜ 据付工事は、据付説明書に従う

・据付工事は、この据付説明書に従って確実に行ってください。据付不備があると、冷媒漏れや感電・火災の原因になります。

Ⓜ 据付は、ユニット質量に耐える所に行う

・据付は、(製品、ユニット) 質量に十分耐えるところに確実に行ってください。強度不足や取付が不完全な場合は、(製品、ユニット) の転倒・落下によりケガの原因となります。

Ⓜ 電気工事は、基準・規程に従う

・電気工事は、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」(及び据付説明書) に従って施工し必ず専用回路を使用してください。電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。

Ⓜ アース工事を行う

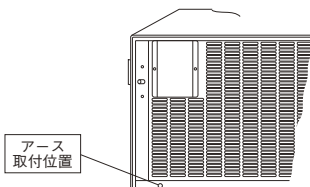
・電気工事業者によるD種接地工事を実施してください。アースが不完全な場合は感電の原因となります。なお、アースの取付位置は右図を参照してください。
(※アース線は付属してあります。)

Ⓜ 水のかかる場所に据付けしない

・水のかかる恐れのある場所に据付けしないでください。絶縁低下から漏電・感電の原因になります。

Ⓜ 保護装置、安全装置の設定値変更はしない

・(保護装置、安全装置) の設定値変更はしないでください。設定値を変えると(製品、ユニット) の破壊、発火の原因となります。



△注意

Ⓜ 漏電遮断装置を取付ける

・漏電遮断器を取付けてください。漏電遮断器が取付けられていないと感電の原因になることがあります。

Ⓜ 換気をよくする

・換気をよくしてください。万一冷媒が漏れると、酸素欠乏の原因になることがあります。

Ⓜ 付属品は、確実に取付ける

・付属品は、確実に装着してください。装着を行わないと冷媒漏れによる発熱、発火の原因になることがあります。

Ⓜ 可燃性ガスの近くに据付けない

・可燃性ガスの漏れる恐れがある場所への据付は行わないでください。万一ガスが漏れて(製品、ユニット) の周囲に溜まると発火の原因になることがあります。

Ⓜ 排水工事を確実に行う

・排水工事を(据付説明書に従って) 確実に行ってください。ドレン水などで保冷库設置場所の床面を濡らす原因になることがあります。

2. 付属部品

NO.	品名	形状	個数	NO.	品名	形状	個数
1	ダクト		1	2	PTTネジ SUS4×16		6 (予備2)
3	ガスケット1		2	4	ガスケット2		2
5	ガスケット3		1	6	パンタイ		1
7	ドレンホース		1	8	パイプ用断熱材		1
9	粘着テープ付固定具		5	10	アース線		1
11	パンタイ2		5	12	取付金具		2
13	フランジ付ボルト		4	14	タップタイトネジ 4×16		3 (予備1)
15	アミ		1	16	サドル		1
17	電源コード		1				

注. NO.12, 13は固定が3カ所の場合(予備1)となります。

△警告

据付工事部品は、必ず当社付属部品および指定の部品を使用する。部品に不備があると、火災・感電・ユニットの落下によるケガ・水漏れの原因になります。

4. 電源

形名	AFH-03A-DC13,DC17	AFH-04A-DC13
電源	三相200V 50/60Hz	
運転電流 (A)	1.1/1.2	1.7/1.4
始動電流 (A)	5.1/4.5	10/9

△警告

電気工事は、「電気設備に関する技術基準」・「内線規程」を遵守し、据付説明書にしたがって施工し、必ず専用回路を使用する。電源回路容量不足や施工不備があると、火災・感電の原因になります。

△警告

電源コードの中間接続・延長コードの使用・タコ足配線はしない。接触不良・絶縁不良・許容電流オーバーなどにより、火災・感電の原因になります。

3. 据付場所の選定

1. 搬入

できるだけ垂直に保ち静かに搬入してください。30°以上は傾けないでください。傾けざるを得ない場合、その時間は最短時間とし、かつ、その後水平な状態で2~3時間放置した後、試運転してください。

2. 据付

△警告

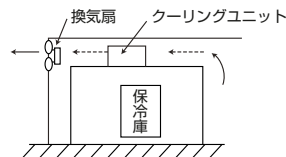
据付は、質量に十分耐える場所に確実に行う。強度の不十分な所に据付けると、ユニットが落下しケガの原因になります。

(1) 水のかからない所

●雨水、その他、水が直接かからない所へ据付けてください。
(本製品は、屋内設置専用です。)

(2) 風通しの良い場所

●凝縮器吸込空気温度が40℃を越える場合は、換気扇を設け40℃以下にしてください。
●厨房室や換気の悪い場所でお使いになりますと熱がこもるおそれがあります。通風については特に配慮してください。



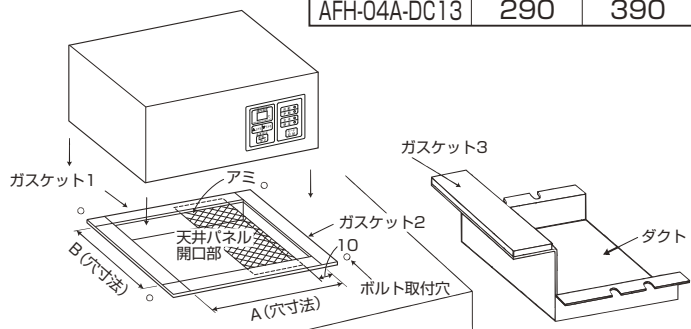
(3) 水平な所。(ユニットは必ず、水平に設置してください。特に冷却部が傾斜してドレンパンが逆勾配になると、排水性が悪くなり、ドレンのオーバーフローやドレンパン氷結が発生します。)

5. ガasketの取付

ガasketの取付手順は、下記の要領にて行ってください。

単位 (mm)

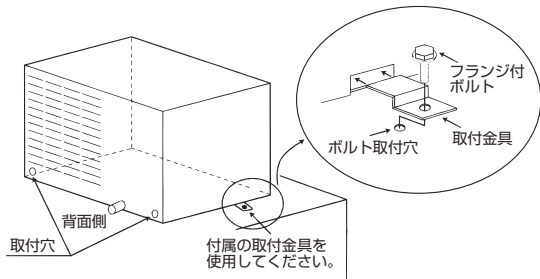
機種	A	B
AFH-03A-DC13,DC17	260	340
AFH-04A-DC13	290	390



1. アミを上左図のように天井パネル開口部より、約10mm離して置いてください。
2. 保冷库天井の角穴の縁に沿って、上左図のようにガasket1、2をアミを押さえつけるように貼付けてください。
3. ガasket1とガasket2の接続部にすき間ができないようにご注意ください。冷気もれの原因になります。
4. ユニートをガasketにのせた状態で、ユニートを横にずらすとガasket、アミを破損する恐れがありますのでご注意ください。
5. 上右図のようにダクトにガasket3を貼付けてください。

6. クーリングユニットの取付

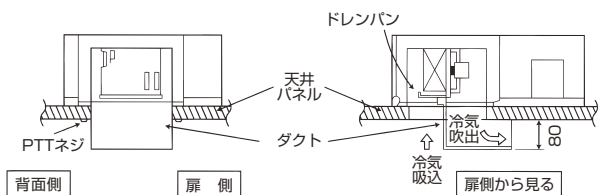
1. クーリングユニットを保冷库に取付けるときは、4カ所をボルトにて固定してください。(一部の保冷库は3カ所)
※ボルトを締付けすぎると保冷库のナット部分が浮きあがるおそれがありますので注意してください。



2. クーリングユニットの取付完了後、庫内よりすき間がないか必ず確認してください。(光もれがないか確認してください。)

7. ダクトの取付

ダクトの取付手順は、下記の要領にて行ってください。



1. 天井パネルにダクトを取付ける場合、方向に注意し、ネジ4本 (PTTネジSUS4×16) で固定してください。
2. ダクトとドレンパンとの間にすき間ができないようにご注意ください。

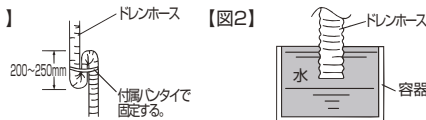
8. ドレン配管取付・注意事項

1. ドレン配管に不備があると外気侵入及びドレン排水不良によるドレンパン氷結が生じます。必ず、付属のドレンホースを使用して、下記に示すように、正しく施工してください。

(1) トラップの設置

必ず次のいずれかの方法でトラップを設けてください。

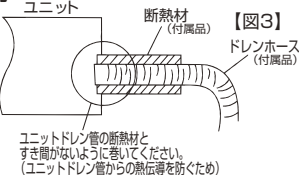
- (イ) 図1に示すようにドレンホースをS字型に曲げてください。
- (ロ) 図2に示すようにドレンホースの先に水を入れた容器を設置してください。【図1】



注. 冬場に設置する場合はあらかじめ、トラップに水を入れるようにしてください。

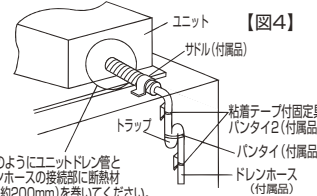
(2) ドレンホースのユニットへの取付

図3に示すように、付属のドレンホースをユニットの壁面まで回しながら差し込んでください。また、ユニットドレン管とドレンホースの接続部に、付属のパイプ用断熱材をすき間がないように巻いてください。ユニットドレン管が露出すると、熱伝導で結露が発生し、水滴が落ちる原因になります。



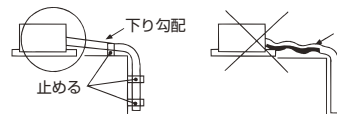
(3) ドレン配管の固定

保冷库天井にドレン配管を施工する場合、図4に示すように、付属のサドル、タップタイトネジ4×16、粘着テープ付固定具、パンタイ2を使用して固定してください。また、次のことを必ず守ってください。



- (イ) 図5左図に示すように必ず下り勾配にし、空気たまり、配管の波打ちがないように固定してください。

【図5】



- (ロ) ドレンホースに巻いたパイプ用断熱材の先端(ユニットと反対側)を天井パネルにサドルとタップタイトネジ4×16(2本)でしっかりと固定し、ドレンホースが下り勾配になるようにしてください。

- (ハ) ドレンホースの横引きはできるだけ短くしてください。
- (ニ) 粘着テープ固定具が外れるようであれば、PTTネジ等で固定してください。
- (ホ) 施工時などに、ドレンホース内に異物が混入しないように注意してください。
- (ヘ) ドレン配管は付属のドレンホースを使用し、延長する場合は水道用の塩ビ管(20A)もしくは、これと同等の内径を有するパイプを使用し、これより細いものは用いないでください。

2. 寒冷地では、ドレンホース内のドレン水が凍結することがあるので、断熱材またはヒーターを取付けて凍結を防止してください。なお、ヒーターを取付けるときには過熱による事故に十分注意してヒーター容量を選定してください。(ヒーター容量の目安……10W/m)

9. 試運転

1. 取扱説明書をよく読んでください。
2. 運転スイッチを入れてください。ユニット運転が始まります。夏期、保冷库のある部屋に換気扇がある場合は、同時にご使用になってください。(ユニットの運転が効率よく行われます。)



⚠ 注意

ユニットの運転の保護のため3分間運転しない場合もあります。

3. 商品は、庫内が適温になってから入れてください。外気温や保冷库によって異なりますが、運転開始後約1～2時間で庫内は適温になります。